

第2回下水道イノベーションセミナー@本郷

下水道でカラフルな地域を

未来を見据えた観点で

産学2名の論客が講演

東京大学下水道システムイノベーション研究室 @本郷をオンラインに
は23日、「第2回下水道イノベーションセミナー」による200余名の参加を



セミナーの配信画面。オンラインで200人以上が聴講した

得て開催した。はじめに主催者を代表して同大学の副学長・教授が、同研究室が東京都下水道サービス（株）の寄付によって昨年度設立された経緯を説明した上で、努力を得た企業・自治体関係者へ謝意を述べ、「限られた時間だが、セミナーが皆さんにとって養い多いものとなることを期待」とあいさつ。続いて、同研究室の加藤勉・特任准教授の司会により、セミナーが進行。「カラフルな地域を創る未来のインフラと人材を育てる」をテーマに大村達夫・東北大学名誉教授、平井和行・明電舎社会インフラ事業企画本部企画部長による2名の講演が行われた。

「カラフルな地域づくりと下水道」の題題で講演を行った大村名誉教授は、下水道情報の活用をめぐって、下水道から守り、身近な環境を保全し、エネルギー資源を創る。これからの下水道の役割に加え、「雨水や廃棄物などの物質の除去から、下水道情報を活用する」という新たな発想が付け加えられ、これからの役割として、地域を活性化させてSDGsの実現を目指す方向性を示した。

下水道情報の利点について、個人情報はなく、匿名性の高いデータであることが最大の強みで、費用もかからない」と述べ、「地域社会の課題解決へ下水道情報の活用拡大と下水道情報センタールの設立」を提唱した。さらに、既に実現している下水道情報の活用事例として、自身が主体的に関わった「クロウイルス感染症流行防止のための監視システムと下水処理水の適正な高圧ナノクイック用剤の栽培、流入下水ナノクイック情報の収集などを紹介するとともに、「下水道情報の活用が理想的な地域社会の基盤に合致する」と主張した。

最後に、下水道システムイノベーション研究室への期待感を述べた上で、学生に対しては「出会うべき」という心地良い空間・自分の好きな時間を大切にする価値観」がその根拠にあることを説明した。

続いて、デンマークのエネルギー政策の歴史と考え方について整理し、「1973年に原子力発電を止めて再生可能エネルギーにシフトして低エネルギー志向を打ち出した。価値については議論は、古いものを捨てて新しいものを生み出す達成価値と、長く使い続ける存在価値とのバランスを取りながら低エネルギー社会の道を歩んできた」と述べて「エネルギー自給率」「デジタル化による成長」「循環経済とエネルギーミックス」を挙げた。

「エネルギーミックス」については「太陽光・風力・洋上風力やバイオマスなどの発電技術を組み合わせることで、再生エネルギーの比率が日本の16.9%に対して50%を達成している」と説明。さらに自給率の促進などを例に挙げつつ、「社会の理想像を本質的に持つていけるので行動の具現化につながる」と指摘した。

起る。大村名誉教授は「それぞれが持ち寄った中々ベクトルは一致しない。まずは目的があつて、この指止まりと話を仕掛けていく必要がある。そのためには地域で連携が不可欠で、これを社会につなげていくという姿勢。目的・構想を持つことが原点であることを再確認できた」と結んだ。

加藤准教授は「2人に共通するのは、夢・構想を持つことが原点であることを再確認できた」と結んだ。

「下水道情報の利点について、個人情報はなく、匿名性の高いデータであることが最大の強みで、費用もかからない」と述べ、「地域社会の課題解決へ下水道情報の活用拡大と下水道情報センタールの設立」を提唱した。さらに、既に実現している下水道情報の活用事例として、自身が主体的に関わった「クロウイルス感染症流行防止のための監視システムと下水処理水の適正な高圧ナノクイック用剤の栽培、流入下水ナノクイック情報の収集などを紹介するとともに、「下水道情報の活用が理想的な地域社会の基盤に合致する」と主張した。

最後に、下水道システムイノベーション研究室への期待感を述べた上で、学生に対しては「出会うべき」という心地良い空間・自分の好きな時間を大切にする価値観」がその根拠にあることを説明した。

続いて、デンマークのエネルギー政策の歴史と考え方について整理し、「1973年に原子力発電を止めて再生可能エネルギーにシフトして低エネルギー志向を打ち出した。価値については議論は、古いものを捨てて新しいものを生み出す達成価値と、長く使い続ける存在価値とのバランスを取りながら低エネルギー社会の道を歩んできた」と述べて「エネルギー自給率」「デジタル化による成長」「循環経済とエネルギーミックス」を挙げた。

「エネルギーミックス」については「太陽光・風力・洋上風力やバイオマスなどの発電技術を組み合わせることで、再生エネルギーの比率が日本の16.9%に対して50%を達成している」と説明。さらに自給率の促進などを例に挙げつつ、「社会の理想像を本質的に持つていけるので行動の具現化につながる」と指摘した。

最後に、下水道システムイノベーション研究室への期待感を述べた上で、学生に対しては「出会うべき」という心地良い空間・自分の好きな時間を大切にする価値観」がその根拠にあることを説明した。

続いて、デンマークのエネルギー政策の歴史と考え方について整理し、「1973年に原子力発電を止めて再生可能エネルギーにシフトして低エネルギー志向を打ち出した。価値については議論は、古いものを捨てて新しいものを生み出す達成価値と、長く使い続ける存在価値とのバランスを取りながら低エネルギー社会の道を歩んできた」と述べて「エネルギー自給率」「デジタル化による成長」「循環経済とエネルギーミックス」を挙げた。

最後に、下水道システムイノベーション研究室への期待感を述べた上で、学生に対しては「出会うべき」という心地良い空間・自分の好きな時間を大切にする価値観」がその根拠にあることを説明した。

「下水道情報の利点について、個人情報はなく、匿名性の高いデータであることが最大の強みで、費用もかからない」と述べ、「地域社会の課題解決へ下水道情報の活用拡大と下水道情報センタールの設立」を提唱した。さらに、既に実現している下水道情報の活用事例として、自身が主体的に関わった「クロウイルス感染症流行防止のための監視システムと下水処理水の適正な高圧ナノクイック用剤の栽培、流入下水ナノクイック情報の収集などを紹介するとともに、「下水道情報の活用が理想的な地域社会の基盤に合致する」と主張した。

最後に、下水道システムイノベーション研究室への期待感を述べた上で、学生に対しては「出会うべき」という心地良い空間・自分の好きな時間を大切にする価値観」がその根拠にあることを説明した。

続いて、デンマークのエネルギー政策の歴史と考え方について整理し、「1973年に原子力発電を止めて再生可能エネルギーにシフトして低エネルギー志向を打ち出した。価値については議論は、古いものを捨てて新しいものを生み出す達成価値と、長く使い続ける存在価値とのバランスを取りながら低エネルギー社会の道を歩んできた」と述べて「エネルギー自給率」「デジタル化による成長」「循環経済とエネルギーミックス」を挙げた。

「エネルギーミックス」については「太陽光・風力・洋上風力やバイオマスなどの発電技術を組み合わせることで、再生エネルギーの比率が日本の16.9%に対して50%を達成している」と説明。さらに自給率の促進などを例に挙げつつ、「社会の理想像を本質的に持つていけるので行動の具現化につながる」と指摘した。

最後に、下水道システムイノベーション研究室への期待感を述べた上で、学生に対しては「出会うべき」という心地良い空間・自分の好きな時間を大切にする価値観」がその根拠にあることを説明した。

続いて、デンマークのエネルギー政策の歴史と考え方について整理し、「1973年に原子力発電を止めて再生可能エネルギーにシフトして低エネルギー志向を打ち出した。価値については議論は、古いものを捨てて新しいものを生み出す達成価値と、長く使い続ける存在価値とのバランスを取りながら低エネルギー社会の道を歩んできた」と述べて「エネルギー自給率」「デジタル化による成長」「循環経済とエネルギーミックス」を挙げた。

最後に、下水道システムイノベーション研究室への期待感を述べた上で、学生に対しては「出会うべき」という心地良い空間・自分の好きな時間を大切にする価値観」がその根拠にあることを説明した。